

請 願 文 書 表

(教育委員会)

受 理 番 号	1 2 2 3	受 理 年 月 日	令 和 5 年 2 月 10 日
件 名	小学校のような全員制の中学校給食の実施		
要 旨	<p>2021年の1年間で、京都市の人口が約1万2,000人少なくなり、全国の市区町村の中で最も減少していたことが総務省の調査で判明した。減少数最多となったのは2年連続である。とりわけ、子育て世代の流出が深刻である。子育て世代の流出する自治体は、子育て支援策の後れが目立つと指摘されている。</p> <p>京都市の中学校給食は、家庭からの弁当持参か給食かを選択するシステムで、民間業者に委託して作られた弁当型の給食が学校に運ばれてくる。おかずが温かくない、給食を利用している友達が少ないなどの理由で、利用率（喫食率）は2014年度の32.3パーセントを最高に6年連続で減少し続け、2021年度は23.7パーセントと非常に低い実態となっている。</p> <p>学校給食は家庭で不足しがちな栄養が補えるように設定され、骨が成長する中学生時代に栄養バランスの取れた給食を食べることは、体の成長・発達だけでなく、子供に安心感を与える。</p> <p>全国では、中学校でも全員制の給食が当たり前である。現在、京都市は施設一体型の小中一貫校だけ全員制の中学校給食を実施している。</p> <p>先日、市会教育福祉委員会で、全員制中学校給食の実施に関する予算の計上を調整と報道があった。</p> <p>ついては、第一に子供の心身の成長・発達を助ける学校給食であること、そして、子育て支援策としても、全ての中学校で小学校のような全員制の給食を早期に実施することを願う。</p> <p>なお、本請願について、668筆の署名を添える。</p>		
請 願 者			
紹 介 議 員	井上けんじ、森田ゆみ子、くらた共子、河合ようこ、ほり 信子		
付 託 委 員 会	教 育 福 祉 委 員 会		